

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 家庭で大切に育てられ穏やかで人懐っこい子が多いが、言葉で自分の気持ちを表現する経験に乏しく、新しい活動には消極的で環境の変化で不安定になる姿が見られる。園生活の中で就学前教育カリキュラムの「知・徳・体」をバランスよく取り入れた活動を行い、子どもたちが主体的に楽しんで遊ぶ中で自己肯定感を育てる。
- 併設する大淀小学校との幼小連携、大淀保育所が対面にある立地条件を生かした幼保交流、近隣の大淀中学校との交流が本園の特色である。未就園児や地域の人とのかかわりの機会も多い。いろいろな人とふれあう中で周りの人に対する愛情や思いやりの気持ちを育てる。また併設小学校との交流活動を通して、就学への期待感を高める。
- 子育てに対しての保護者の関心は比較的高い地域ではあるが、各家庭様々で入園前の個人差も大きい。1人1人の実態に合わせた指導と、子どもたちの健康な体づくりのための基本的生活習慣の自立と食育の大切さを啓発していく。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「お子さんは幼稚園や家庭・地域などで非常災害が起こった時、自分の身を守る方法を知っていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」「幼稚園は地域の様々な人とかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができているか」「子どもは年度当初に比べて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切に、小学校に親しみをもてるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組みを分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「お子さんは正しい生活習慣(うがい・手洗い・早寝、早起きなど)が身につけていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「お子さんは幼稚園や家庭・地域などで非常災害が起こった時、自分の身を守る方法を知っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は地域の様々な人とのかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができているか」「子どもは年度当初にくらべて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切に、小学校に親しみをもてるように、小学校との連携活動を工夫している」「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組みを分かりやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「お子さんは正しい生活習慣（うがい・手洗い・早寝、早起きなど）が身についていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 29 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の園運営全体を通じて、「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」のそれぞれの項目において目標達成することができた。

次年度は更に保育内容の充実を図り、子どもたちがいきいきと園生活を過ごす中で、1人1人がその力を発揮し、保護者の方にはその姿や成長を見て頂きながら、園の教育内容や教師の教育的意図をもった働きかけについて分かりやすく伝えていきたい。

平成 30・31 年度には併設小学校の増改築を控えている。子どもたちの安全を守りながら、園内外の環境を見直し、更に充実した保育が展開できるよう教職員の連携と資質向上に努めたい。

大阪市立中大淀幼稚園 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の保育アンケート調査で、「お子さんは幼稚園や家庭・地域などで非常災害が起こった時、自分の身を守る方法を知っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」「幼稚園は地域の様々な人とのかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができているか」「子どもは年度当初にくらべて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもてるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組みを分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 非常災害時に自分の身を守るための避難の方法を身につけ、命の大切さに気付く保育を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の年間計画をたて実施する。 月1回 併設小学校との合同避難訓練、合同研修を実施する。 年3回 視覚教材を使った指導を行う。 年3回 	C
<p>取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】 様々な人とかかわる機会を設け、いろいろな人と触れ合うことができるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス間での交流活動を実施する。 週1回 保育所や中学校との交流を実施する。 年6回 未就園児や地域の人との交流活動を実施する。 月2回 あいさつに関する取組みを実施する。 学期1回 	B
<p>取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】 小学校就学に向けて、なめらかな接続のための幼小連携につとめる。</p>	A

指標 ・ 幼小交流の年間計画を作成し、交流活動を実施する。 ・ 教職員合同研修や打ち合わせ、反省会を実施する。	年 4 回 年 5 回	
取組内容④【施策 3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 園の保育内容や取組みを分かりやすく保護者・地域に発信し、園生活の中で育つ子どもの成長を伝え子育て支援につなげる。		
指標 ・ 毎月クラスだよりを発行する。 ・ パワーポイントや写真掲示を行う。 ・ ホームページの更新を行う。	月 1 回 年 5 回 幼稚園分 年 5 回 小学校分 月 1 0 回	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月のアンケート調査「お子さんは、幼稚園や家庭・地域などで非常災害が起こった時、自分の身を守る方法を知っていますか」の項目は、肯定的評価が 63%であった。指標は達成したものの保護者に対する啓発や理解につながる取り組みが足りなかった。 ・ 年間計画をたて月 1 回の避難訓練を行なった。火災・地震・津波・不審者対応などねらいをもって月ごとに想定を変え、どのようにすれば自分の身が守れるか段階を追って子どもたちが考えていけるよう進めた。5歳児は去年度の経験をもとに、約束を再確認しながら訓練に参加し終了後は担任と共に振り返りを行なった。子どもたち自身が課題を見つけ次回に活かせるようにしたことで、避難の意味や意図をよく理解して参加する姿が見られるようになった。4歳児は初めての避難訓練であることから丁寧に想定ごとの避難の約束や大切さを知らせるようにしたことで、当初は不安げに参加していた子どもたちも経験を積み重ねることで進んで参加できるようになり、自分で自分の身を守る方法について理解し、全園児が主体的に参加できるようになった。 ・ 夏休み前と 3 学期に預かり保育時間中、火災・地震・不審者想定での避難訓練を今年度初めて実施した。子どもたちは勿論、教職員の役割の確認にもつながり有意義であった。 ・ 小学校で行われた A E D の講習会に幼稚園からも合同参加し、小学校にある A E D の設置場所も教員全員で確認を行いプール実施に向けての備えをした。また 9 月の 8 8 0 万人訓練では小学校と合同で地震・津波の避難訓練を行い、教職員で避難時の動きや対応を確認する貴重な機会になった。また 10 月には幼稚園に A E D が設置された。安全面の強化に今後も努めたい。 ・ 訓練終了後に振り返りをおこない、「おはし」の視覚カードを使って「押さない、走らない、しゃべらない」の避難の約束を知らせるようにした。またクラスでは絵本や紙芝居を使って子どもたちに分かりやすい伝えを行なったことで、子どもたちの中に非常時の避難に対する理解が進んだ。 ・ 2 月、地域の防災訓練が行われる際に小学校の施設と共に、幼稚園のプレイルームを活用し訓練を行なった。園児・保護者の希望者が参加しての活動になり、地域と共に防災について考える機会になった。 取組内容② <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月のアンケート調査「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」の項目は、肯定的評価が 86%、「幼稚園は地域の様々な人とのかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができていますか」86%。「子どもは年度当初にくらべて、 		

進んであいさつをしていますか」80%であった。

- ・クラス間での交流活動は週1回以上行った。年度初めは5歳児の4歳児への手伝いや、意図的に集会活動や交流できる時間をもつようにした。園外保育の前には、一緒に歩く友達に親しみの気持ちが膨らむように事前にペア活動をした。それらの積み重ねがあり、3学期の終わりには自然な形で異年齢の友達がかかわって遊ぶ姿が見られた。その中で5歳児は優しさや思いやりの気持ちが育ち、4歳児は刺激を受けたり、憧れたりする姿が見られている。また担任同士がクラスの様子や子どもたちの遊びについてなど共通理解や意見交換を密に行い、クラス間の子どもたちをつなぐ環境や働きかけの工夫を行ったことで、子どもたちが互いのクラスの遊びや活動に関心をもち、一緒に遊ぶ姿にもつながった。
- ・保育所との交流は1学期2回、2学期2回、中学校との交流は3回（大淀中職業体験1回（3日間）、ふれあい体験1回（3日間）、天満中ペガサス隊1回）行った。事前に丁寧な打ち合わせを行うことで、子どもたちが安心して交流する姿につながった。保育所とは昨年度の反省を生かし、年間計画の打ち合わせで回数や内容について丁寧に見直しを行い、毎回の交流の前には保育案を交換し子どもの実態に合わせた交流内容を一緒に考えることができた。意見交換をする中で担任同士の資質向上にもつながった。
- ・未就園児とのかかわりは「わくわくひろば」を毎月2回程度行った。「わくわくひろば」では集会活動の中で、体操を一緒にしたり、ふれあいを楽しめる内容を取り入れたりして、頼りにされる嬉しさや年下の友達とのかかわりを楽しむ姿が見られた。未就園児3歳児子育て支援活動(たんぽぽクラブ)とも5歳児中心に朝の身支度の手伝いなどを通して接したり、体操やふれあい遊びを一緒にしたりすることで親しみの気持ちを深めた。
- ・地域の方とのかかわりは4回（北区図書ボランティア2回、盆踊りの指導1回、大淀地域食事サービス訪問1回）行った。食事サービス訪問では事前に作ったプレゼントを持参し、歌をきいてもらったり、「肩たたき」でふれあいを行ったりした。地域の方に温かく受け入れてもらい子どもたちの自己肯定感がはぐくまれた。
- ・あいさつに関する取り組みは学期に1回以上行った。毎学期あいさつ週間を設け、朝正門に立ち毎学期1回「あいさつ隊」を行った。1学期は5歳児親子、2学期は5歳児、3学期は4・5歳児と段階を追って行うことで、安心して「あいさつ隊」に参加でき、保護者啓発にもつながった。その後あいさつをすすんでする子どもや、子ども同士であいさつをする姿が増え、あいさつをすることの大切さや心地よさを知らせる機会となった。2学期にはあいさつだよりも1回発行した。教師や周りの大人が見本となることが基本だと考え、正門や保育室で目線を合わせてあいさつするようにしている。4歳児は毎朝「おはようのうた」を1学期末から歌うようにしたり、5歳児は2学期にあいさつについての話し合いを行い、子どもからでた意見をポスターにしたりするなど学年に合わせたあいさつに関する取り組みを行った。

取組内容③

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもてるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目は、肯定的評価が86%であった。
- ・小学校との交流は年4回以上行った。年間計画通り進め、1学期は3回、2学期は4回、3学期は3回行った。3学期には、5歳児クラスで6年生と交流したいという声から担任同士

が連携をとり、年間計画にはない交流活動も実施できた。

小学生が優しく接してくれたり、活動を見せてくれたりすることで、憧れの気持ちや進学への安心感がはぐくまれた。事前に期待をもつことができるように、教師が知らせたり、歌や合奏を聞いてもらう時には招待状を作ったりした。事後には必ず振り返りの時間をもつようにしたり、お礼の絵を描いたり、してその時の気持ちを大切にすることで、その日の活動だけで終わらず、なめらかな接続にむけての気持ちをはぐくめるようにした。

- ・教職員合同研修や打ち合わせなどは年5回以上行った。5月幼稚園研究保育実施の際に小学校の先生が参加したり、小学校の研究授業に職員が参加したりし学び合う機会をもつことで、幼小連携に努めた。また、打ち合わせについては、今年度の子どもたちの実態に合わせた内容を検討し話し合うことで、子どもたちが活動の楽しさを十分味わったり、小学生への親しみの気持ちがより深まったりする内容となった。事後の反省会は時間の確保が難しいことがあったが、反省を書いて渡すなどして次年度につながるようにした。

取組内容④

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は園の保育内容や取組みを分かりやすく保護者や地域に発信していますか」の項目は、肯定的評価が86%であった。
- ・クラスだよりは、両クラスのを配り学年ごとの保育のねらいを伝えられるようにした。また今年度は教師のねらいや保育の意図を太文字と下線を入れて分かり易く伝えられるようにしたことで、アンケート結果などに教師の意図を理解した記述が保護者から寄せられるようになり、保育内容に対する理解が進んだ。
- ・参観や公開保育などの機会を使って、子どものつぶやきや保育のねらい、就学前教育カリキュラムの「知・徳・体」の視点を入れた写真を掲示した。学期ごとに保護者にその学期を振り返ったパワーポイントを見せ、保育のねらいや意図などをわかりやすく伝えた。子どもたちの写真を活用していることで保護者も関心をもって見てくださり、園の教育内容や教師の教育的意図を理解してもらえらる貴重な機会になった。
- ・毎日の降園時の連絡や学級懇談会・個人懇談などで、子どもの気づきや育ち、具体的な姿などを伝えた。また、月末に保育室降園日を設定し、各担任から1ヶ月の子どもの姿や課題、これからのことなど教育的意図を含めながら保護者に話せる機会を設けていることで、子どもたちの成長の過程がよく保護者に伝わり、成長を実感できる機会になっている。
- ・機会を逃さず幼稚園ホームページの更新を行なったことで、ホームページを見ての来園や問い合わせなどが増えた。また小学校のホームページに日々の保育や、園行事の子どもたちの姿などを適宜更新したことで、園の保育内容や取組みを分かりやすく伝えることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・懸案である災害時の引き渡し訓練に向けたマニュアル作りを行い、保護者啓発も含めた取り組みに努める。
- ・安全面を確保しながら、様々な想定での避難訓練を行う。
- ・未就園児も参加しての避難訓練を行い、より実際の園生活の場面に即した訓練を行う。
- ・非常災害時の新マニュアル作りをおこない、非常時に子どもたちの命を守る体制作りを努める。

取組内容②

- ・異年齢交流は、1回1回の機会を大切に、学期ごとに担当を割り振るなどして、内容も含めて計画的に行えるようにする。
- ・保育所、地域、中学生との交流は引き続き事前に打ち合わせを丁寧に行い、いろいろな人とかかわる経験を積み重ね、地域の一員であることを伝えていく。
- ・あいさつ週間の時だけでなく、日頃からあいさつの大切さを伝えられるような保育内容を工夫する。

取組内容③

- ・幼小交流は打ち合わせ日を早めに決めるなど円滑に連携をとり、子どもの実態に合った交流内容を行えるようにする。
- ・年間計画だけにとらわれず、交流内容を工夫をする。

取組内容④

- ・園の教育内容や保育内容を分りやすく保護者・地域に今後も発信していく。
- ・保育室降園を更に活用し、担任が自信をもって自分の言葉で保育を語られるようになる。
- ・幼稚園のホームページなども計画的に輪番し、教職員全員での情報発信に努める。

大阪市立中大淀幼稚園 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「お子さんは正しい生活習慣(うがい・手洗い・早寝、早起きなど)が身についていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 平成29年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4、全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>教職員の資質向上を図り、一人一人の子どもの実態を把握し、子どもの興味・関心にあった保育内容や環境の工夫・充実につなげる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育の打ち合わせを実施する。 週1回 就学前教育カリキュラムを活用して週案・日案を立案する。 毎日 園内研究保育や指導要請を実施する。 年3回 	B
<p>取組内容②【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>のびのびと体を動かして遊び、その楽しさを味わう子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 体操やダンスなど、楽しく体を動かす機会を作る。 週1回 体を動かして遊びたいくなるような環境の見直しをする。 月1回 	B
<p>取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>自分の体を大切にしようという気持ちをもてるよう、生活習慣の指導を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健指導の年間計画を作成し、生活習慣に関する保健指導を行う 年3回 はみがき・あさごはんカレンダーを配布する。 学期1回 清潔調べの実施 月1回 保健指導内容をパワーポイントや掲示などで保護者に知らせる 学期1回 	A

<p>取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 食べ物に興味関心を持つよう、野菜や朝食を食べることの大切さを指導する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育だよりを発行する。 学期1回 ・やさいカードを配布する 年3回 ・朝食チェックシートの配布 学期1回 ・食育に関する保健指導を行う。 年3回 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月のアンケート調査において、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」の項目は肯定的評価が86%、「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目は肯定的評価が86%であった。 ・毎週1回保育の打ち合わせを行った。行事前等は、次週の週案について打ち合わせの時間を設けることが難しいこともあったが、日々担任同士で当日・翌日の保育について話をし、それを他教諭に伝達した。そうすることで、互いのクラスの実態や保育内容の共通理解をすることができた。また、日常的に職員間でクラスの様子や子どもの様子について伝え合うようにすることで、教職員全員が一人一人の子どもを理解することにつながり、教師の働きかけにつなげていくことができた。そのことが保育の充実につながり、子どもの育ちに還元することができた。 ・担任それぞれが週案・日案を作成するときに、就学前教育カリキュラムを参考にし、知・徳・体の観点から働きかけを考えることで保育実践へとつなげることができた。また実際に週案・日案のねらいや教育的意図をもった働きかけの横に「知」「徳」「体」の分類を記入することで、自分の保育を見直す機会にもなり、知・徳・体がバランスよく育つように心がけることができた。2学期末には、各担任が就学前教育カリキュラムの「知・徳・体」に沿って自己の実践を振り返り、それを保護者向けのパワーポイントに掲載することで、保護者にも教師の意図や思いを伝えることができた。 ・5月31日に研究保育を実施し、就学前教育カリキュラムをいかした保育指導案を作成した。子どもの何を育てたいのか、そのためにはどのような援助が必要なのかについて考察を重ね、当日は他園の先生方に保育を見ていただいて保育の環境や援助についての検討会を行い、資質向上につながった。また、9月21日には4歳児クラス、1月24日には5歳児クラスで園内研究保育を行った。各クラスに合わせたねらいをもって保育を行い、他教諭が参観した。保育後には反省会を行い、資質向上につなげるとともに、子どもたちの次の活動へとつなげることができた。5月の研究保育には、併設小学校の教員にも参加していただき、小学校教諭としての視点から意見をいただいた。また、4歳児担任は5年次研修の一環として小学1年生の授業を見学し、園児と児童の姿の違いや教師のかかわりの違いを感じ、就学までに子どもが身に付けておくと望ましいこと等について考えるきっかけとなった。 ・作品展前には、元大阪市立幼稚園の園長先生を招き、ご指導いただいた。作品展の取り組みについて具体的にご指導をいただき、その後の保育に生かすことができ、教員の資質向上につながった。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月のアンケート調査において、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶ 	

ことを楽しんでいきますか」の項目は肯定的評価が86%であった。

- ・日常的に体操やダンスなどを保育に取り入れたことで、楽しく体を動かす姿が多く見られた。クラスの活動として取り組んだ体操・ダンスを好きな遊びの時間に子どもが自由に遊べるようにしておいたことで、子どもたちにとってより体操やダンスが身近なものとなった。友達と一緒にふれあって遊ぶものもあり、体を動かして遊ぶ楽しさだけでなく友達と一緒に遊ぶ楽しさも存分に感じる事ができた。
- ・広い園庭を活かし、走ったり自転車に乗ったりして、のびのびと体を動かして遊ぶ姿が多く見られた。クラスの活動として、また好きな遊びの中で、のびのびと遊ぶことで気持ちを開放して遊ぶ姿につながった。また、年度当初に比べると、脚力や持久力等もついてきたように思われる。
- ・年長児は、年度当初から鬼ごっこやリレーを楽しんでいた。範囲を決めて鬼遊びをしたり、距離を短くしたりタッチリレーからバトンを使ったリレーにしたりするなど、子どもの姿に合わせて内容を工夫することで、存分に体を動かして遊んだり、友達と競って遊ぶ楽しさを感じたりする姿が見られた。2学期からはドッジボールへの関心が高まった。昨年度の年長児が遊んでいる様子を、憧れの気持ちで見ていた経験や、併設小学校の子どもたちがドッジボールをしている姿を見て刺激を受け、自分たちもやってみようという思いをもつ子どもが多かった。好きな遊びの中で友達と誘い合って遊ぶ姿があり、クラスの活動として全員で取り組む時間を設けると、より積極的にドッジボールをして楽しむ姿が見られるようになった。併設小学校の子どもからの刺激は大きく、小学生が縄遊びやマラソン、ドッジボール等様々なことに取り組んでいる姿を見て、自分もやってみようと思える姿が多く見られた。2月には、小学6年生とリレー交流を行い、小学生が使用するバトンを使い、普段よりも長い距離を走ることができ、小学生への親しみが高まり、就学への期待につながった。好きな遊びの前後にクラス全員で縄遊びやマラソン、ドッジボール等をする時間をもつことで、友達と一緒に体を動かして遊ぶ姿が見られるようになった。様々な体を動かして遊ぶ経験を通し、年度当初より体力、特に脚力がついたように思われる。
- ・年少児は、運動会での年長児の姿に刺激を受けたり憧れを抱いたりしたことが、自分もやってみようと思える姿につながった。年長児の遊びに参加する子どもも多く、一緒に遊ぶ中で様々な刺激を受け、それを自分たちの遊びに取り入れている姿もあった。運動会のおみやげでもらった短縄を使って“なわとびタイム”を行い、無理なく取り組むことができるように活動を工夫することで縄に親しみ、縄遊びの楽しさを感じられるようにしたり、クラスの活動として氷鬼やバナナ鬼などを行うことで好きな遊びの中でも誘い合って鬼ごっこをする姿も見られるようになったりした。体を動かして遊ぶことに苦手意識をもっていた子どもも、クラスの活動の中では楽しく参加するようになった。
- ・体を動かして遊ぶ楽しさは存分に感じていたが、健康や体力を保持増進する力の育成としては課題が残った。毎週の保育の打ち合わせの際に、体を動かして遊びたくなるような環境の見直しについても話し合い、運動面においても様々な力を育むことができるように取り組む必要があったと考える。

取組内容③

- ・2月のアンケート調査「お子さんは、正しい生活習慣（うがい・手洗い・早寝・早起きなど）

が身につけていますか」の項目は、肯定的評価が84%であった。

- ・年度初めに保健指導年間計画を作成し、それに基づき保健指導を実施した。見通しを持って指導することができた。
- ・年3回以上、生活習慣に関する保健指導を実施した。視覚教材や、歌、ペープサートなどを用いて指導したことで子どもたちが興味・関心を持ち、手洗いやうがいなどに取り組む姿が見られた。また、使用した指導教材を園内に掲示し、事後指導に繋がるようにした。
- ・学期に1回、はみがき・あさごはんカレンダーを配布した。保健指導の内容に合わせて、学期ごとに内容を変えて長期休業中も、歯みがきや朝食、野菜を食べることへの関心を高めた。
- ・清潔調べを月1回実施。去年度より実施方法を変更し、実施日を知らせずに抜き打ちで行った。ハンカチや、はなかみを毎日持ってくる子どもが多くなり、身の回りを清潔にしようという気持ちをもつことに繋がった。
- ・保健指導内容を学期に1回パワーポイントや掲示などで保護者へ知らせた。また毎月のほけんだよりを活用し、保健指導のねらいや指導の様子を掲載したり、保健活動についてのパワーポイントを作成したりすることで保護者への啓発を行ったことで、家庭の協力を得ることや保護者理解がすすんだ。

取組内容④

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発していますか」の項目は、肯定的評価が85%であった。
- ・学期に1回食育だよりを発行し、園内での食育活動について知らせた。
- ・年3回以上やさいカードを配布。園内で栽培・収穫した野菜を家庭に持ち帰り、どのように調理したか、どのような会話があったかを自由に書いてもらい回収した。回収したものを登降園時に気軽に見ることが出来るパーゴラの掲示板に貼り出すことで、保護者同士の意見交換の場につながり、それぞれが食事や子どもの食育について関心を高めるきっかけになった。
- ・朝食チェックシートを学期に1回発行し、家庭での朝食の摂取状況の確認し、朝食をとる大切さを子どもにも保護者にも意識づける機会になった。また、朝食の内容を記入してもらったことで普段の子どもたちの朝食の様子を知る機会になった。回収した朝食チェックシートを、パーゴラに掲示した。
- ・年3回食育に関する保健指導を実施した。視覚教材、歌、絵カルタなどを用いたことで野菜や食べることについて楽しみながら知らせることに繋がった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・日々保育の打ち合わせを行い、連携をとりながら保育を進めていく。
- ・就学前教育カリキュラムを再度読み直して理解し、知・徳・体をバランスよく育めるよう、保育内容の充実に努める。また、知・徳・体を通した保育の振り返りを行い、より良い保育実践に努める。
- ・新幼稚園教育要領について理解を深め、保育内容に生かしていく。
- ・園内研究保育を行い、資質向上につなげていく。

取組内容②

- ・子どもの興味・関心に寄り添い、楽しく体を動かす機会を作っていく。
- ・教職員間で連携をとり、体を動かして遊びたくなるような環境構成の工夫に努める。

- ・来年度は併設小学校の増築により、園庭の使用状況が厳しくなることが予想される。プレイルームの有効的な活用や近隣の公園の活用などをうまく取り入れていく。

取組内容③

- ・はみがきや朝ごはんだけでなく、いろいろな生活習慣を身に付けることができるよう、他の項目についてもカレンダーに取り入れる。
- ・清潔調べについて、実施時期や実施方法等を職員で共通理解する。
- ・各クラス担任と連携し子どもの実態と課題に合った保健指導を行う。
- ・保健指導後、反省会の機会を設け、より良い指導をできるようにする。
- ・保健活動についての保護者理解や協力を得ることができるよう、様々な方法での保護者啓発を行う。

取組内容④

- ・身近な食育の話題を掲載し、食の大切さの啓発を行う。
- ・食育指導の様子を食育だよりに掲載するなど、親子で関心をもてる内容にする。
- ・やさいカードは、保護者へ知らせる機会をもてたが、子どもたちにも知らせ、野菜に興味をもつきっかけ作りを行う。
- ・栄養バランスのとれた朝食を食べる意識を高めるなど発達段階に応じたチェックシートを作成する。
- ・栄養士など、食育についての専門の方に講演会等を依頼し、保護者への食育指導を行う。